

国語 第3学年 書き表し方をくふうして、物語を書こう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、冒険で起こる出来事と登場人物の行動の理由を結び付け、読者が筋道を追える物語を書く。出来事を増やすことより、困ったことについて人物がどう考え、何をして進んだかを詳しくする。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 「書き表し方をくふうして、物語を書こう」 教材名 「たから島のぼうけん」

2 単元の目標

人物の行動や気持ち、性格を表す語句を集め、物語の中で使える。物語の出来事や人物の行動について理由が伝わるように、書き表し方を工夫できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①人物の行動や気持ち、性格を表す語句を集め、物語の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)オ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、物語の出来事や人物の行動について理由が伝わるように、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

冒険で起こる出来事と登場人物の行動の理由を結び付け、読者が筋道を追える物語を書く。出来事を増やすことより、困ったことについて人物がどう考え、何をして進んだかを詳しくする。学習指導要領のB(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

出来事と人物の行動を並べたメモに、なぜそうしたかを書く欄を付ける。展開が作れない児童は身近な困りごとの解決を思い出し、冒険の出来事に置き換えて考える。教科書の絵は複製せず、使用する場合は原本で見る。おおむね満足できる状況は、物語の出来事や人物の行動について理由が伝わるように、書き表し方を工夫しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

第1次 第1時：○読み手を決め、冒険の始まりと目指すことを考える。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時：○主人公の性格と関わる人物を決め、どんな困りごとが起こるか考える。 評価：知①（語句や内容の整理）

第2次 第3時：○出来事、人物の考えと行動、結果をメモでつなぐ。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第4時：○メモを基に下書きを書き、行動や気持ちを表す語句を選ぶ。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第5時（本時）：○人物の行動の理由が読み手に伝わるかを確かめ、説明や描写を加える。 評価：思①（発言・学習記録）

第2次 第6時：○物語を読み合い、筋道が追えない所を質問して書き直す。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第7時：○語句、文の続き、段落を確かめて仕上げる。 評価：学習状況を見て支援する。

第3次 第8時：○作品を交流し、人物の行動と理由を書いた効果を振り返る。 評価：態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導（5／8）

（1）本時の目標

物語の出来事や人物の行動について理由が伝わるように、書き表し方を工夫できる。

（2）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「この人物は、なぜその行動をしたのですか。読んだ人が分かるように、どんな様子や言葉を加えますか」

【めあて】冒険で起こる出来事と登場人物の行動の理由を結び付け、読者が筋道を追える物語を書く。

予想される児童の反応：・急に解決すると、どうしてできたのか伝わらない。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「この人物は、なぜその行動をしたのですか。読んだ人が分かるように、どんな様子や言葉を加えますか」

自分の物語の下書きから、人物の行動とその理由が分かる箇所を選ぶ。友達に読んでもらい、理由が伝わらない箇所を聞く。人物の気持ちや前の出来事を表す文を書き足すなどして、行動の理由が伝わる文章へ直す。

予想される児童の反応：・急に解決すると、どうしてできたのか伝わらない。

・人物の考えを書けば行動の理由が伝わる。

・同じ困りごとでも性格によって行動が変わる。

指導上の留意点：出来事と人物の行動を並べたメモに、なぜそうしたかを書く欄を付ける。展開が作れない児童は身近な困りごとの解決を思い出し、冒険の出来事に置き換えて考える。教科書の絵は複製せず、使用する場合は原本で見る。

想定する難しさ：事件を次々に置き、解決が偶然だけになる。会話を増やしても行動の理由が伝わらない。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 物語の出来事や人物の行動について理由が伝わるように、書き表し方を工夫している。（物語の下書きと改稿・行動の理由を表した文）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・同じ困りごとでも性格によって行動が変わる。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この人物は、なぜその行動をしたのですか。読んだ人が分かるように、どんな様子や言葉を加えますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲

み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

